

## ハンブルグでの超高速会議



目で見ると  
海外論文発表

米田 勇祐\*

Ultrafast conference in Hamburg

Key Words : physical chemistry, ultrafast spectroscopy, electron transfer, coherent wavy packet motion

<参加会議名> XXI International Conference on Ultrafast Phenomena

<開催場所> Hamburg, Germany

<渡航期間> 2018年7月14日 - 2018年7月22日

<発表タイトル>

Vibrational Coherence in Ultrafast Electron Transfer Reaction Observed by Broadband Transient Absorption Spectroscopy

2018年7月15日から20日の6日間、ドイツのハンブルグで行われた International Conference on Ultrafast Phenomena (UP) に参加してきました。UPは1976年から隔年で行われ、今回で21回目の開催となる超高速分野の中心的な学会です。学会では超高速パルスの発生・検出方法や、それらの物理・化学・生物系への応用に関する研究を扱います。今年のUP2018は12件の招待講演と152件の口頭発表、245件のポスター発表から構成され、活発な議論が行われました。

本会議では、光合成反応におけるコヒーレンスや高次高調波発生、時間分解電子線回折等、超高速分野における最先端のトピックスが多く議論されました。また、来年から私が海外特別研究員として訪問する予定のGraham Fleming教授による新規多次元分光に関する講演も聞くことができました。日本国内ではなかなか聞くことができないようなレベルの高い研究内容ばかりで多くの刺激を受けました。また、私は「広帯域過渡吸収分光による超高速電

子移動反応における振動コヒーレンスの観測」というタイトルでポスター発表を行いました。発表では多くの海外の研究者と交流することができました。超短パルスの発生方法といった実験技術に関する事や、電子移動における振動コヒーレンスの役割といった現象論的な事まで、高い専門知識と深い洞察力を持った優れた人物たちと有意義な議論を行うことができました。特に、似たような研究を行なっている韓国人のポスドクとは意気投合し、一緒に晩餐会に参加するなど、非常に仲良くなることができました。

本学会を通じて、レベルの高い研究内容を直接経験し、また多くの外国人研究者と交流することができました。今回の経験は、今後の私の研究活動においても、とても貴重な経験であったと確信しています。

最後になりましたが、本国際会議への参加にあたり多大なるご支援をいただきました生産技術振興協会に心より感謝申し上げます。



ハンブルグ中央駅



Graham Fleming 教授の講演



ハンブルグの街並み



ポスター発表の様子



\* Yusuke YONEDA

1991年4月生まれ  
大阪大学大学院基礎工学研究科物質創成専攻 (2016年)

現在、大阪大学大学院基礎工学研究科物質創成専攻 宮坂研究室 博士後期課程学生3年、日本学術振興会特別研究員DC1 修士(工学) 物理化学

TEL : 06-6850-6243

FAX : 06-6850-6244

E-mail : yoneda@laser.chem.es.osaka-u.ac.jp



学会会場のホテル



晩餐会の様子